

平成29年度 小・中学校における環境教育の取組み

教科名 理科・総合的な学習の時間 (第6学年)

テーマ【自然との共生 ～身近な自然にフレテ～】

寝屋川立国松緑丘小学校

### 《学習のねらい》

- ・学校の敷地にある自然に一年間を通して「ふれる」
- ・地域の自然に「ふれる」
- ・継続的な観察・体験活動を通して、自然に親しみ、持続可能な社会の形成について考える

### 《学習の流れ》

実施時期 5月 ～ 12月



#### (1) 「国小ニフレテ調査隊」の自然体験活動プログラム

活動目的：校内・地域の自然観察・体験活動を通して学んだことを活かし、校内自然環境コーナーの展示制作を通して全校児童に自然環境についての情報発信を行う。

- 活動内容：①めだかの飼育と水槽展示 ②毎日の雲・お天気調査 ③顕微鏡屋 ④校内樹木調査  
⑤環境省全国水生生物調査への参加 ⑥プールのやご救出作戦 ⑦国小ニフレテ特別展  
⑧海と街のつながり～給食のおかず調査～



#### (2) 修学旅行の取組

目的地：伊勢「海の博物館」

活動目的：日本における地形の特色及び海洋環境についての考えを深めるために、体験活動を実施し、海と海で働く人とのつながりを知り、持続可能な社会の形成について考える。

- 活動内容：①事前学習（にっぽんの海を知ろう） ②磯体験・ビーチコーミング  
③海の博物館見学 ④海の博物館学芸員さんの講義

ビーチコーミング

海岸などに打ち上げられた漂

着物を収集・観察すること

### 《指導のポイント》

- カリキュラム開発のための教員研修の実施及び校外自主研修への参加「先生が学ぶ」
- 子どもの気づきや考えを尊重する「子どもと一緒に学ぶ」
- 持続可能な社会の形成について考える材料（資料と体験）を実感する「自分のこととして」

### 《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

書籍：①船の科学館資料ガイド11 にっぽんの海 ②海の生きもの魚っちんぐ

③瀬戸内海の自然を楽しむ ④大阪の河川環境を知る ⑤河川環境調査項目の意味について

研修：①寝屋川の自然を学ぶ会「校庭の樹木調査」

②広島大学名誉教授・NPO 法人里海づくり研究会議理事長松田治先生

「世界に発信する瀬戸内海～豊かな里海と satoumi をめざして～」

③博物館等を利用した理科教育「理科教育と水族館をつなぐ方法」

### 《成果（児童・生徒の感想や反応 等）

- ・継続的な観察、体験活動を実施することで「四季」の特徴を実感することができた。
- ・街のくらしが、海や山という環境とそこで暮らす人たちの営みが深く関わっていることを学んだ。